

令和2年度 自己点検・評価書

令和3年12月

佐賀大学
全学教育機構

I 現況及び特徴

1. 組織名 佐賀大学全学教育機構
2. 所在地 佐賀市本庄町1番地
3. 教育研究上の組織

教育組織	英語部会 共通教職保健体育部会 共通基礎情報部会 基本教養自然科学と技術部会 基本教養文化部会 基本教養現代社会部会 基本教養総合科目部会 インターフェース環境部会 インターフェース文化と共生部会 インターフェース生活と科学部会 インターフェース人間と社会部会 インターフェース医療・福祉と社会部会 インターフェース地域・佐賀学部会 初年次教育部会 外国人留学生教育部会 副専攻部会 大学院教養教育部会
支援組織	高等教育開発室 生涯学習センター 数理・データサイエンス教育推進室会議 クリエイティブ・ラーニングセンター

4. 学生数及び教員数（令和2年5月1日現在）

学生数	学部 5,839 人、大学院 785 人（佐賀大学在学生数として）
教員数	専任教員数：22 人

II 目的

機構は、佐賀大学（以下「本学」という。）の目的、使命にのっとり、本学の共通教育、国際教育及び高等教育開発並びに本学の教育における情報通信技術の活用支援及び情報メディアによるコンテンツのデザインと研究開発を総合的に行うことにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の質保証に資することを目的としている。

また、機構は、本学の目的、使命にのっとり、本学の大学院に置く各研究科における大学院教養教育を支援すること、及び本学の生涯学習を推進することを目的とする。

Ⅲ－Ⅰ 教育に関する状況と自己評価（大学機関別認証評価の評価基準（分析項目）に基づき、自己点検・評価を行う。）

領域 1 教育研究上の基本組織に関する基準

基準 1－1 教育研究上の基本組織が、大学等の目的に照らして適切に構成されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[1-1-1] 学部及びその学科並びに研究科及びその専攻の構成（学部、学科以外の基本的組織を設置している場合は、その構成）が、大学及びそれぞれの組織の目的を達成する上で適切なものとなっていること	・佐賀大学全学教育機構規則（資料 1-1-1-1） ・佐賀大学全学教育機構組織運営規程（資料 1-1-1-2） ・令和 2 年度全学教育機構組織運営体制（令和 2 年 1 0 月 1 日現在）（資料 1-1-1-3）	・学部・研究科規則 ・基本計画書	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 1－2 教育研究活動等の展開に必要な教員が適切に配置されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[1-2-1] 大学設置基準等各設置基準に照らして、必要な人数の教員を配置していること	・全学教育機構専任及び併任の教員一覧（令和 2 年 1 0 月 1 日現在）（資料 1-2-1）	・認証評価共通基礎データ（様式 1）	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[1-2-2] 教員の年齢及び性別の構成が、著しく偏っていないこと	・教員の年齢別・性別内訳（資料 1-2-2）	・（別紙様式 1-2-2）教員の年齢別・性別内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
英語の専任教員が減少し、非常勤講師を多数雇用している。 令和2年4月1日現在で5人いた英語の専任教員が、令和3年4月1日現在で2人に減少した。	令和3年2月から公募を開始し、令和3年8月1日に日本人教員1名を採用して、英語の専任教員不足を一部改善した。 引き続き、ネイティブ教員の採用も含めて、英語の専任教員の配置の実現に向けて努力する。	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準1-3 教育研究活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[1-3-1] 教員の組織的な役割分担の下で、教育研究に係る責任の所在が明確になっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学基本規則（資料1-3-1-1） ・佐賀大学全学教育機構規則 ・佐賀大学全学教育機構組織運営規程 ・令和2年度全学教育機構組織運営体制（令和2年10月1日現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式1-3-1）教員組織と教育組織の対応表 ・国立大学法人佐賀大学基本規則 ・責任者の氏名が分かる資料 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[1-3-2] 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学全学教育機構規則 ・令和2年度全学教育機構運営委員会委員名簿（令和2年10月1日現在）（資料1-3-2-1） ・令和2年度における全学教育機構運営委員会開催実績一覧（資料1-3-2-2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式1-3-2）規定上の開催頻度と前年度における開催実績一覧 ・各学部教授会規則 ・各研究科委員会規則 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[1-3-3] 全学的見地から、学長若しくは副学長の下で教育研究活動について審議し又は実施する組織が機能していること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。 特になし			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

領域2 内部質保証に関する基準

基準2-1 【重点評価項目】内部質保証に係る体制が明確に規定されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[2-1-1] 大学等の教育研究活動等の質及び学生の学習成果の水準について、継続的に維持、向上を図ることを目的とした全学的な体制（以下、「機関別内部質保証体制」という。）を整備していること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[2-1-2] それぞれの教育研究上の基本組織が、教育課程について責任をもつように質保証の体制が整備されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学全学教育機構組織運営規程 ・佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する細則（資料2-1-2-1） ・佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する申合せ（資料2-1-2-2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-1-2）教育研究上の基本組織一覧 ・佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する細則 ・佐賀大学教育コーディネーター制度実施規程 ・佐賀大学教育コーディネーター会議内規 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[2-1-3] 施設及び設備、学生支援並びに学生の受入に関して質保証について責任をもつ体制を整備していること	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学全学教育機構規則 ・質保証について責任をもつ体制への構成員等の一覧（資料2-1-3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式2-1-3）質保証について責任をもつ体制への構成員等の一覧 ・佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する細則 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。 特になし			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 2-2 【重点評価項目】内部質保証のための手順が明確に規定されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[2-2-1] それぞれの教育課程について、以下の事項を機関別内部質保証体制が確認する手順を有していること (1) 学位授与方針が大学等の目的に則して定められていること (2) 教育課程方針が大学等の目的及び学位授与方針と整合性をもって定められていること (3) 学習成果の達成が授与する学位に相応しい水準になっていること</p>			<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-2-2] 教育課程ごとの点検・評価において、領域 6 の各基準に照らした判断を行うことが定められていること</p>	<p>・佐賀大学全学教育機構における教育点検・改善実施要項(資料 2-2-2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 2-2-2) 教育課程における評価の内容を規定する規定類一覧 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・各教育課程における教育課程点検・改善実施要項 ・佐賀大学教育コーディネーター制度実施規程 	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>

<p>[2-2-3] 施設及び設備、学生支援、学生の受入に関して行う自己点検・評価の方法が明確に定められていること</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 2-2-3) 自己点検・評価の実施時期、評価方法を規定する規定類一覧 ・佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する細則 	<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-2-4] 機関別内部質保証体制において、関係者(学生、卒業(修了)生、卒業(修了)生の主な雇用者等)から意見を聴取する仕組みを設けていること</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 2-2-4) 意見聴取の実施時期、内容等一覧 ・佐賀大学学生による授業評価実施要項 ・佐賀大学の卒業生又は修了生を対象としたアンケート実施要領 ・佐賀大学の卒業生又は修了生が就職した企業等を対象とするアンケート実施要領 	<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-2-5] 機関別内部質保証体制において共有、確認された自己点検・評価結果(設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む。)を踏まえた対応措置について検討、立案、提案する手順が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則(資料 2-2-5-1) ・佐賀大学における質保証の体制及び自己点検・評価の手順に関する細則(資料 2-2-5-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 2-2-5) 検討、立案、提案の責任主体一覧 ・佐賀大学大学評価の実施に関する規則 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・各学部における教育課程点検・改善実施要項 ・佐賀大学教育コーディネーター制度実施規程 	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>

<p>[2-2-6] 機関別内部質保証体制において承認された計画を実施する手順が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン 	<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 2-2-6) 実施の責任主体一覧 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン ・佐賀大学教育コーディネーター制度実施規程 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>[2-2-7] 機関別内部質保証体制において、その決定した計画の進捗を確認するとともに、その進捗状況に応じた必要な対処方法について決定する手順が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的な自己点検・評価の実施及び点検・評価結果を活用したマネジメントサイクルに関する方針 ・佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針 ・佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 		<p><input type="checkbox"/> 検討中</p> <p><input type="checkbox"/> 対応中</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>()</p>

基準 2-3 【重点評価項目】 内部質保証が有効に機能していること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[2-3-1] 自己点検・評価の結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む）を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果をあげていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること	・ 計画等の進捗状況一覧（資料 2-3-1）	・ （別紙様式 2-3-1） 計画等の進捗状況一覧	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[2-3-2] 機関別内部質保証体制のなかで、点検に必要な情報を体系的、継続的に収集、分析する取組を組織的に行っており、その取組が効果的に機能していること（より望ましい取組として分析）	・ 令和 2 年度 組織別授業評価報告書（資料 2-3-3-1）	・ 国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則 ・ 部局の自己点検・評価書	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[2-3-3] 機関別内部質保証体制のなかで、学生・卒業生を含む関係者からの意見を体系的、継続的に収集、分析する取組を組織的に行っており、その意見を反映した取組を行っていること（より望ましい取組として分析）		・ 学生、卒業生就職先アンケート等	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[2-3-4] 質保証を行うに相応しい第三者による検証、助言を受け、内部質保証に対する社会的信頼が一層向上している状況にあること（より望ましい取組として分析）		・ 外部評価結果（JABEE、教職大学院認証評価、医学教育分野別認証評価など第三者評価が該当）	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・ 特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 2-4 教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組みを有していること

該当なし

基準 2-5 組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[2-5-1] 教員の採用及び昇格等に当たって、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績に関する判断の方法等を明確に定め、実際にその方法によって採用、昇格させていること</p>	<p>・教員の採用・昇任の状況（令和元年度分） 採用 1 名（特任教授 1）について書類選考・面接により選考を実施した。昇任 1 名（准教授 1）について面接・模擬授業により選考を実施した。 ・明文化された規定類 国立大学法人佐賀大学教員人事の方針 国立大学法人佐賀大学教員選考規則 国立大学法人佐賀大学における任期を定めて雇用する教育職員に関する規程</p>	<p>・（別紙様式 2-5-1） 教員の採用・昇任の状況 ・国立大学法人佐賀大学教員選考規則 ・各学部・研究科で定められた選考基準等</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である <input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-5-2] 教員の教育活動、研究活動及びその他の活動に関する評価を継続的に実施していること</p>	<p>[補足説明等] 国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準 佐賀大学全学教育機構における職員の個人評価に関する実施基準（資料 2-5-2-1） 教員業績評価の実施状況 ・教員の業績評価の内容、実施方法、実施状況が確認できる資料（実施要項、業績評価結果の報告書等） 教員個人評価報告書（令和 2 年度）（資料 2-5-2-2）</p>	<p>・（別紙様式 2-5-2） 教員業績評価の実施状況 ・国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準 ・各学部における個人評価に関する実施基準</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である <input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-5-3] 評価の結果、把握された事項に対して評価の目的に則した取組を行っていること</p>	<p>・教員個人評価報告書</p>	<p>・（別紙様式 2-5-3） 評価結果に基づく取組 ・個人評価集計・分析</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である <input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-5-4] 授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に実施していること</p>	<p>・FDの内容・方法及び実施状況一覧（資料 2-5-4）</p>	<p>・（別紙様式 2-5-4） FDの内容・方法及び実施状況一覧</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である <input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-5-5] 教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、それらの者が適切に活用されていること</p>	<p>・教育支援者、教育補助者一覧（資料 2-5-5） （令和 2 年度ティーチング・アシスタント事業実績書）</p>	<p>・（別紙様式 2-5-5） 教育支援者、教育補助者一覧</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である <input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[2-5-6] 教育支援者、教育補助者が教育活動を展開するために必要な職員の担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施していること</p>	<p>・令和 2 年度ティーチング・アシスタント実施報告書（資料 2-5-6-1） ・佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領（資料 2-5-6-2）</p>	<p>・（別紙様式 2-5-6） 教育支援者等に対する研修等内容・方法及び実施状況一覧 ・TA 報告書</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である <input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>

(自由記載欄)

※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。

・令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔授業を導入したため、教員に対して、オンライン授業ポータルサイトの解説による情報提供、オンライン会議ツールの授業利用等のFDを行った。また、遠隔授業の場合のアクティブ・ラーニング例の提示、シラバス作成の手引きに遠隔授業の留意点を盛り込む修正を行い、コロナ禍においてもアクティブ・ラーニングが実施できるよう取り組んだ。全学教育機構の発信により、令和2年度のアクティブ・ラーニングの導入率が99.8%に至った。

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準

該当なし

領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準

基準4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[4-1-1] 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備を法令に基づき整備していること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-1-2] 法令が定める実習施設等が設置されていること			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-1-3] 施設・設備における安全性について、配慮していること	・施設・設備の耐震化、バリアフリー化等の整備状況及び安全・防犯面への配慮の状況(資料4-1-3-1) ・施設・設備の整備(耐震化、バリアフリー化等)状況(面積、収容者数)、利用状況等が確認できる資料(資料4-1-3-2) ・安全・防犯面への配慮がなされていることが確認できる資料(資料4-1-3-3)		<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[4-1-4] 教育研究活動を展開する上で必要なICT環境を整備し、それが有効に活用されていること	ポートフォリオシステム 出席管理システム 講義自動収録配信システム eラーニング オンライン会議システム Webex		<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

<p>[4-1-5] 大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されていること</p>			<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
<p>[4-1-6] 自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていること</p>	<p>・自主的学習環境整備状況一覧 (資料 4-1-6)</p>	<p>・(別紙様式 4-1-6) 自主的学習環境整備状況一覧</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
<p>(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>4-1-4 令和2年度前学期の授業実施において、コロナ禍で対面による授業が停止となったため、ビデオ教材の作成に講義自動収録システムが従来以上に利用された。 講義自動収録配信システムは、構築後6年が経過し、システムの保守ができなくなったため、その機能を4月に導入したオンライン会議システムに移行することとし、9月末日をもって運用を停止した。 オンライン授業を支援するオンライン会議システムの利用継続については、国内外の動向を踏まえながら他サービスの利用も含め検討する。</p> <p>4-1-6 全学教育機構では、自学自習室1室を設置するとともに、自学自習室とは別に、飲食や私語が自由にできる学生ホールを2部屋設置している。自学自習室は1人ごとのブースで仕切られた自習室である。近年の学生は多少騒がしい場所での学習も好むようであり、学生ホールでも、食事、休息を取る学生に交じって、本を読んだり、パソコンを操作して自学自習する学生が目立っている。なお、自学自習室は遅い時刻まで学習に勤しむ学生もいるため、平成26年度には監視カメラを設置し、そのことを知らせる掲示を出して、自学自習を行う学生の安全を確保している。 自学自習スペース等の利用方法については、全学教育機構のウェブサイトに掲載して、学生への周知と活用促進を図っている。 コロナ禍における多様な教育ニーズに対応する教育環境として、教室内受講者と外部(オンライン)受講者に同じ映像・音声を伝えられる設備や授業動画収録用のスタジオ、個別学習からアクティブ・ラーニングまで幅広い用途に対応可能な教室等、様々な教育設備の整備を行った。</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
<p>・特になし</p>		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準4-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[4-2-1] 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備していること</p>	<p>学生相談・支援 https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/sodan.html ・相談・助言体制等一覧(資料4-2-1-1) ・保健(管理)センター、学生相談室、就職支援室等を設置している場合は、その概要や相談・助言体制(相談員、カウンセラーの配置等)が確認できる資料 ・各種ハラスメント等の相談体制や対策方法が確認できる資料(取扱要項等) (資料4-2-1-2) ・生活支援制度の学生への周知方法(刊行物、プリント、掲示等)が確認できる資料 ・生活支援制度の利用実績が確認できる資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式4-2-1)相談・助言体制等一覧 ・国立大学法人佐賀大学学生支援室設置規則 ・国立大学法人佐賀大学学生支援室運営規程 ・国立大学法人佐賀大学キャリアセンター規則 ・佐賀大学保健管理センター規則 ・国立大学法人佐賀大学メンタルヘルス等相談窓口設置規程 	<p><input checked="" type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[4-2-2] 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っていること</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式4-2-2)課外活動に係る支援状況一覧 ・学生団体設置一覧 	<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[4-2-3] 留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・留学生への生活支援の内容及び実施体制 ・外国人留学生ガイドブック2021 ・佐賀大学国際交流会館規程 ・留学生チューター一覧 	<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
<p>[4-2-4] 障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式4-2-4)障害のある学生等に対する生活支援の内容及び実施体制 	<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>

<p>[4-2-5] 学生に対する経済面での援助を行っていること</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・(別紙様式 4-2-5) 経済的支援の整備状況、利用実績一覧 ・佐賀大学入学料及び授業料免除等規程 ・佐賀大学入学料及び授業料免除選考基準 ・佐賀大学かささぎ奨学金実施規程 ・古賀常次郎記念奨学金の要項 	<p><input type="checkbox"/>適切である</p> <p><input type="checkbox"/>改善を要する点がある</p>
--	--	--	--

(自由記載欄)
 ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
<p>・特になし</p>		<p><input type="checkbox"/> 検討中</p> <p><input type="checkbox"/> 対応中</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>()</p>

領域 5 学生の受入に関する基準

該当なし

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること

該当なし

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-2-1] 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、 ①教育課程の編成の方針、 ②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③ 学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	全学教育機構 教育課程編成・実施の方針 https://www.oge.saga-u.ac.jp/students_01a.html	・教育課程編成・実施の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[5-2-2] 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	・公表された教育課程方針及び学位授与方針 全学教育機構 教育課程編成・実施の方針	・教育課程編成・実施の方針 ・学位授与の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。			
特になし			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-3-1] 教育課程の編成が、体系的を有していること	・体系的が確認できる資料（カリキュラムマップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 全学教育機構コースナンバリング（教務課資料）（資料6-3-1） ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） 全学教育機構履修の手引き【2020年度】 http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/tebiki-r2-kyoyo.pdf	・履修モデル ・カリキュラムマップ ・コースナンバリング	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

<p>[6-3-2] 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること</p>	<p>・シラバス 2020年度シラバス（教務課データ） https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init ・その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料 シラバスの点検及び改善に関する要項 シラバス点検フロー シラバス作成の手引き （全学教育機構）シラバス点検結果報告（R2）（教務課データ） （資料 6-3-2） （全学教育機構）シラバス点検表（R2） （教務課データ）</p>	<p>・シラバス ・シラバス点検に関する要項 ・シラバス点検フロー ・シラバス作成の手引き ・シラバス点検結果</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>[6-3-3] 他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<p>・明文化された規定類 佐賀大学学則 佐賀大学教養教育科目履修規程（8条） https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/441.html 他の大学において履修した授業科目の認定のための審査内規 放送大学における学修（単位互換によるもの）の認定のための審査内規</p>	<p>・佐賀大学学則 ・佐賀大学大学院学則 ・他の大学において履修した授業科目の認定のための審査内規 ・各学部・研究科の該当する規則</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>（自由記載欄） ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。 特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
<p>・特になし</p>		<p><input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>

基準 6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-4-1] 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	・1年間の授業を行う期間が確認できる資料(学年暦、年間スケジュール) 佐賀大学学則 https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakusoku.html 令和2年度学年暦 https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakunen_reki.html	・佐賀大学学則 ・佐賀大学大学院学則 ・学年暦	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[6-4-2] 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	・1年間の授業を行う機関が確認できる資料(学年暦、年間スケジュール) ・令和2年度学年暦 https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakunen_reki.html ・シラバス 2020シラバス https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21	・学年暦 ・シラバス	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[6-4-3] 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	・シラバスの全件、全項目が確認できる資料(電子シラバスのデータ(csv)等) 2020シラバス https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21	・シラバス ・履修の手引き	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[6-4-4] 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	・シラバス 2020シラバス https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21	・(別紙様式6-4-4)教育上主要と認める授業科目 ・シラバス	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
<p>(自由記載欄)</p> <p>※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>・留学を希望する学生向けに、英語の授業だけでなく、基本教養科目やインターフェース科目の授業をも英語で行う、グローバル人材養成プログラム「留学支援英語教育カリキュラム(International Study Abroad Curriculum, 通称 ISAC)」を平成25年度から開講し、英語教育の改革と充実を図っている。令和2年度の受講希望者は196人であった。</p> <p>・外国人教員による英語クラス(令和2年度77クラス)を開講した。</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 6-5 学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
<p>[6-5-1] 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること</p>	<p>・履修指導の実施状況（資料 6-5-1） [補足説明等]</p>	<p>・（別紙様式 6-5-1）履修指導の実施状況 ・ 新生オリエンテーション資料</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>[6-5-2] 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<p>・学習相談の実施状況（資料 6-5-2） [補足説明等]</p>	<p>・（別紙様式 6-5-2）学習指導の実施状況 ・ 通信教育を行う課程を置いてい</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>[6-5-3] 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<p>・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（資料 6-5-3） [補足説明等]</p>	<p>・（別紙様式 6-5-3）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・ インターンシップ参加実施状況</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>
<p>[6-5-4] 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<p>・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 佐賀大学学生支援室集中支援部門 HP https://www.ssd.saga-u.ac.jp/ ・チューター等を配置している場合はその制度や配置状況が確認できる資料 該当なし ・留学生に対する外国語による情報提供（時間割、シラバス等）を行っている場合は、その該当箇所 該当なし ・障害のある学生に対する支援（ノートテーカー等）を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況（受講者数等）が確認できる資料 該当なし ・学習支援の利用実績が確認できる資料 該当なし [補足説明等]</p>	<p>・（別紙様式 6-5-4）履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 ・ 佐賀大学 学生支援室 集中支援部門</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある</p>

(自由記載欄)
 ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。

・特になし

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

分析項目	根拠資料	【参考】 想定される根拠資料	点検・評価結果
[6-6-1] 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	全学教育機構履修の手引き【2020度】 http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/tebiki-r2-kyoyo.pdf ・ 成績評価基準 佐賀大学成績判定等に関する規程 2020 シラバス	・佐賀大学成績判定等に関する規程 ・シラバス	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[6-6-2] 成績評価基準を学生に周知していること	・成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 学生便覧【令和2度】(P88) https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/04/62cf02fa48d20e9f9d56c494b4258687-1.pdf	・学生便覧 ・履修案内	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
[6-6-3] 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	・成績評価の分布表 成績分布表(非公表)(教務課データ) ・成績評価分布等のデータに関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (全学教育機構)成績評価の分布の点検・報告書_2020 務課データ) ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料	・成績評価の分布表 ・成績評価の分布の点検・報告書 ・佐賀大学における成績評定平均値に関する規程 ・履修細則	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある

	G P A 学生用説明文 (H26 改訂版) 佐賀大学における成績評定平均値に関する規程 計算例		
[6-6-4] 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 学生便覧【令和2度】(P107) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ 成績評価に関する異議申立て (R2 (教務課データ)) ・ 成績評価の根拠となる資料 (答案、レポート、出席記録等) を保存することを定めている規定類 佐賀大学学生の成績評価の異議申立ての手続きに関する要項 (第3の4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生便覧 ・ 佐賀大学学生の成績評価の異議申立ての手続きに関する要項 ・ 成績評価に関する異議申立て件数等のデータ 	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善を要する点がある
<p>(自由記載欄) ※基準に係る状況・特色、優れた成果が確認できる取組、根拠資料だけでは説明が難しいものに関する補足説明など、自由に記載ください。</p> <p>特になし</p>			

【改善を要する事項及び改善状況】

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・ 特になし		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

基準 6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること

該当なし

基準 6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

該当なし

IV 研究に関する状況と自己評価

1) 研究の領域における活動実績の集計と分析

【著書・論文・学会報告】

① 業績の集計

区分		実施件数	実施教員数(人)
著書	単著	0	0
	共著	1	1
論文	単著	9	5
	(査読付き)	(0)	(0)
	共著	1	1
	(査読付き)	(0)	(0)
学会報告		6	4
プロジェクト研究		7	5

② 業績の分析

- 著書の出版は、共著のみ1件であった。
- 論文は単著論文が9本、共著論文が1本の合計10本で、教員1人当たり0.6本となる(2020年度の専任教員数は17名)。これらの論文のうち査読付き論文は、単著と共著ともに皆無であった。当機構の教員数に照らすと高い数値ではない。
- 学会報告は6件であり、単純に平均すれば、教員1人当たり0.4件の報告が行われている。
- 以上のことから、機構では相応の研究活動が行われてはいるが、一定の質を評価された研究活動を高める必要がある。
- 2020年度は前年度に比較して単著論文以外の区分において業績が顕著に低下しており、COVID-19感染症対策のため教員の活動が研究から教育(特にオンライン授業への対応)へ大きくシフトせざるを得なかった結果を反映している。

【科研費等、外部資金の獲得】

① 業績の集計

区分		実施件数	実施教員数(人)
科学研究費	申請	5	5
	(採択)	(0)	(0)
	継続	5	5
受託研究等		6	5

② 業績の分析

- 令和2年度科学研究費補助金に申請した件数は5件(申請者は5人)であった。継続課題を有しているものが5名、申請していないものが2名であった。
- 申請5件のうち採択は無かったため、採択率は0%であった。
- 受託研究等は6件であった。
- 以上のことから、機構は教育に力点を置いているとはいえ、科研費や受託研究による研究活動の実

施については、それなりの実績を上げているとは言い切れず、今後の向上が望まれる。

【その他の研究動向】

① 業績の集計

区分	実施件数	実施教員数(人)
プロジェクト研究・共同研究	7	5
地域に密着した研究	6	5
研究成果等の社会への還元	4	3
研究成果等による知的財産の創出・取得	0	0
受託研究等による外部資金の獲得	6	5
その他の研究業績	9	6

② 業績の分析

- プロジェクト研究・共同研究の実績は7件、地域に密着した研究は6件、研究成果等の社会への還元は4件であり、前年度と比較して低下しているが一応の業績を上げている。
- プロジェクト研究・共同研究には、5人の教員が取り組み、研究成果の社会への貢献についても3人の教員が取り組んでいる。また、受託研究等による外部資金の獲得については6件であった。
- 以上から、研究に対する機構の教員の研究への取り組みは、それなりの評価を得ているものと思われる。

2) 研究の領域における改善を要する事項

先端的コンテンツ開発施設を活用した、先端的コンテンツ制作を引き続き実施する。

V 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

1) 国際交流・社会貢献の領域における活動実績の集計と分析

【国際交流】

① 業績の集計

区分	実施件数	実施教員数(人)
国際的学術交流事業への協力貢献	2	2
留学生の受入・派遣・指導	2	2
学術交流協定を締結する大学との学生交流	0	0
英語版ホームページの設置	1	1
国際学会、国際シンポジウムの開催・参加	1	1
国際共同研究者の受入	0	0
制度・組織を利用した国際交流	1	1
国外との共同研究の推進	1	1

② 業績の分析

- 国外との共同研究は1件で、1人の教員が実施している。
- 留学生の受入・派遣・指導についても2件あり、2人の教員が推進している。
- 国際共同研究者の受入など、さらに踏み込んだ活動に向けた努力を要するものと判断しうる。
- 研究の領域と同様、COVID-19 感染症対策のため、業績が前年度と比較してやや低下しているのはやむを得ない状況であったと言える。

【社会貢献】

① 業績の集計

区分	実施件数	実施教員数(人)
国内での共同研究の実施	7	5
市民公開講座・開放講座の開設・実施	1	1
地域の要請による授業・講演	15	6
審議会や委員会、関連学協会等の活動	32	5
地域産業や地域社会への知識・技術の移転	4	2
市民活動の支援	7	3
その他の社会貢献活動	3	2

② 業績の分析

- 地域の要請による授業・講演が15件、国内での共同研究が7件、市民公開講座等の開設実施は1件と全般的に見て社会貢献分野において活発な推進状況にあると言える。
- この領域においては前年度の実績と比較して微減に留まっており、COVID-19 感染症対策下においては良好な結果であったと言える。
- 自治体を中心とした行政上の審議会や委員会、関連学協会の活動実績は前年度と同じ32件に上り、当機構の教員が有する高度の専門知識を用いた活動は、極めて有意義かつ重要な場面での社会貢献を果たしていると言える。

- 地域産業や社会への知識・技術移転が4件、市民活動への支援が7件あって、それぞれ2人、3人の教員が当たっており、地域の住民生活への直接的な貢献活動が実施されている。
- 以上から、地域貢献活動は順調な内容であったと評価しうる。

2) 国際交流・社会貢献領域における改善を要する事項

- 生涯学習に関する取り組みである授業開放において、教養教育科目だけでなく、学部が開設する専門科目についても対象を拡大して実施する。
- クリエイティブ・ラーニングセンター内に共同研究拠点を設け、佐賀市の支援によるMRコンテンツ開発事業を実施する。
- 2020年度はCOVID-19感染症対策のためのオンライン授業への取り組みが喫緊の課題であったため、本領域については改善がなされたとは言い切れず、継続して取り組んでいく必要がある。

VI- I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

- ・佐賀大学が令和2年4月に策定した将来構想「佐賀大学のこれから—ビジョン2030—」が定めたアクションを遂行するために、4つのプロジェクトを企画・立案し、実行した。
- ・これまでCOC+事業として実施していた事業については、令和2年度から佐賀県による「佐賀県産業人材確保プロジェクト」との連携による推進体制を構築し、キャリアセンターとの連携による推進する仕組みを構築した。

〔支援組織〕クリエイティブ・ラーニングセンターの取組

○eラーニングの継続的な実施

- ・ネット授業：計17科目（前学期5科目，後学期12科目）を開講。
- ・科目履修用：計151科目（前学期100科目，後学期51科目）を開講。
- ・教職員向け講座を開講。

○ICT利活用の推進に向けたFD /SD講座の開講

- ・Microsoft365/Webex/Moodle などICT活用やオンライン授業の実践に向けたFD講習会を，計27回実施。
- ・Microsoft365やExcelなどICT活用のためのSD講習会を計4回実施。
- ・Webページとして「オンライン授業ポータル（佐賀大学）」を作成し，オンライン授業関連資料や動画を作成して教職員に提供した。

（<https://www.oge.saga-u.ac.jp/online/>）

○オンライン授業化に伴う授業手法の改善に関する講座の開講

- ・オンラインホワイトボードを利用したオンライン授業でのグループワーク手法に関するFD講習会を対面で2回開催した。
- ・授業目的公衆送信補償金制度と著作権法第35条の改正についての5本の動画制作配信と1回のオンライン講習会を実施した。

○学生作品の開発支援，地域プロジェクト支援

- ・ルーマニア大学依頼の映像イベント作品の制作や，地域在住のパフォーマーや本学教員とオンラインによる身体表現修得の可能性を探るプロジェクトを実施した。

○クリエイティブデザインの情報ハブ支援

- ・企業と学生が参加する継続的なモーショントラッキング研修会やAdobe系ツールのオンライン学習会を開催した。
- ・新入生オンライン授業支援サイト「げちでのたまご」やWebオープンキャンパスにおけるVRコンテンツ「さだいさんぽ！」を作成し公開した。

○佐賀デジタルミュージアムの維持管理

地域資産デジタルアーカイブスとして佐賀県及びベトナムの高齢者向けに両国の観光地をVRコンテンツ化する開発を行った。

○企業との共同研究，MRコンテンツ開発共同研究（redeco）の推進

佐賀県での最先端技術に対する研究開発や実践教育・人材雇用を活発化させるために，県内IT企業4社でつくる「次世代コンテンツ開発共同企業体」と佐賀大学，佐賀市によるコンテンツ研究開発と実践教育を行う拠点として令和元年に発足した「redeco（リデコ）」では，地域を題材とした3種（三

重津海軍所跡、諸富家具、バルーン)のMRコンテンツを開発し、成果を第25回日本バーチャルリアリティ学会や最先端コンテンツ開発成果発表会にて発表した。その他にもモーションキャプチャ講習会やSE研修会などを実施した。

〔支援組織〕生涯学習センターの取組

○授業開放の実施

- ・生涯学習に関する取り組みである授業開放において、教養教育科目だけでなく、学部が開設する専門科目に関しても対象を拡大して実施した。
- ・2020年度前学期に教養教育科目42科目、専門科目13科目、大学院教養科目1科目を授業開放として実施予定であったが、コロナ禍の影響により中止した。後学期は教養科目5科目、専門科目1科目を授業開放科目として開講しオンラインで実施した。延べ9名の参加があった。

〔支援組織〕数理・データサイエンス教育支援室の取組

- ・数理・データサイエンス教育支援室を設置した。
- ・令和3年度から開講する、佐賀大学データサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル）の準備を行った。
- ・佐賀大学データサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル）実施要項を策定した。